2022.8.14

MESSAGE NOTES

根拠のある望み、無い望み

ローマ人への手紙　15 章 13 節

ロイド・フラハティ

詩篇　147 篇 11 節
"主を恐れる者と御恵みを待ち望む者とを主は好まれる。"

1. 望み（希望）がなぜそんなに重要なの？

望み（希望）は私たちの人生に本当の意味をもたらしてくれます。望み（希望）は絶望感を取り除いてくれます。立ち上がって動き出すために人は望み（希望）が必要です。

詩篇　43 篇 5 節
"わがたましいよなぜおまえはうなだれているのか。なぜ私のうちで思い乱れているのか。神を待ち望め。私はなおも神をほめたたえる。私の救い私の神を。"

2. 何に望み（希望）を置いていますか？

神様に置く望みは根拠のない望みではありません。単なる願望とは違うのです。人間の根拠のないプラス思考がもたらす虚しさが明るみに出ると、私たちは前にも増して絶望感を味わうようになります。

テモテへの手紙 第一　4 章 10 節
"私たちが労苦し、苦闘しているのは、すべての人々、特に信じる人々の救い主である生ける神に、望みを置いているからです。"

3. 根拠のある望み

ローマ人への手紙　15 章 13 節
"どうか、希望の神が、信仰によるすべての喜びと平安であなたがたを満たし、聖霊の力によって希望にあふれさせてくださいますように。"

天の父なる神に望み（希望）を置くと、前進するための力とエネルギーを受け取ることができます。

まとめ

希望の神様を見上げていきましょう。神様を信頼し、助けを求め、神様が与えてくださる希望を持って前進していきましょう。私たちは神様に希望を置いているので、期待して神様を見上げていきます。